

ニホンジカの効率的捕獲とその効果検証

林業総合センター 育林部 柳澤 賢一

はじめに

長野県では、

- シカの生息頭数は増えているが、シカの捕獲頭数が伸び悩む
- 狩猟者は減っているが、ワナ猟免許取得者割合は増加

⇒ 捕獲数増のため、**ワナによる効率的捕獲技術が必要**
 ⇒ 自動撮影カメラデータにより、**①シカの利用頻度の高い2箇所を選定し、②くくりワナによる集中的捕獲の実証と③生息密度低減効果を検証**した

まとめ

シカの日撮影頭数が1頭以上の2箇所において、集中的に捕獲
 ⇒ **いずれも効率的に捕獲でき、密度を下げる効果があった**

しかし、
 捕獲圧のないカラマツ林内では、2週間後に日撮影頭数が急激に増加
 ⇒ **生息密度の低減を維持するためには、周辺を含めて継続して捕獲する必要があった。**

方法

シカの生息調査

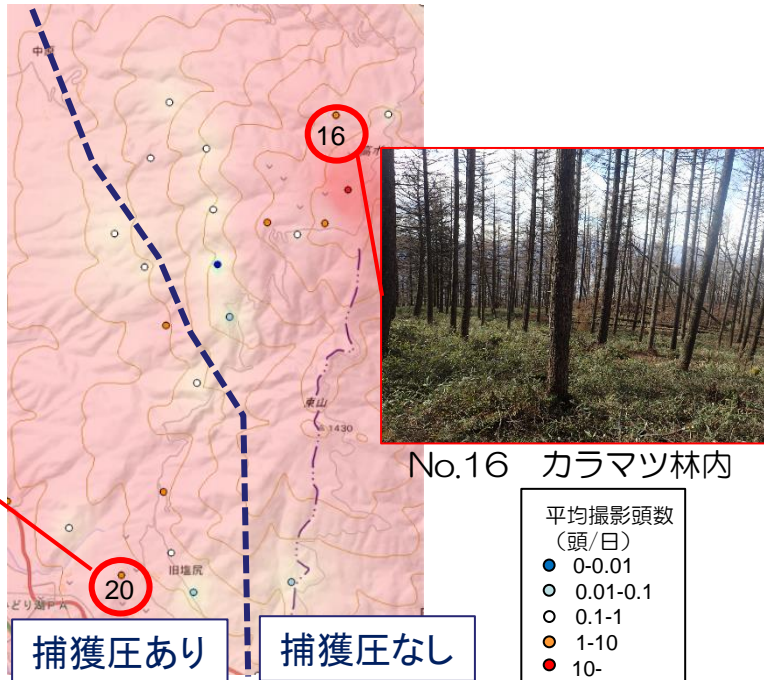
- 対象地に自動撮影カメラを設置
- 捕獲直前一个月的撮影頭数を確認



No.20 畑地から林縁部

捕獲場所の選定

- シカが1日1頭以上撮影された箇所
- 見回りが容易な道沿い
- ワナを固定できる立木がある位置



No.16 カラマツ林内

捕獲圧あり

捕獲圧なし

捕獲の実施

- 各箇所の獣道上に笠松式くくりワナを6基ずつ設置
- 10月から11月の30日間実施
- 捕獲効率 (CPUE) を算出



【笠松式くくりワナ】

捕獲の効果検証

【糞塊除去法】

- 捕獲前後で各箇所のシカ生息密度を推定

【カメラ撮影頭数】

- 捕獲前後30日間で各箇所の平均日撮影頭数を比較

結果と考察

【捕獲頭数と捕獲効率 (CPUE)】

カメラNo.	捕獲頭数	平均CPUE
16	8	0.044
20	4	0.022

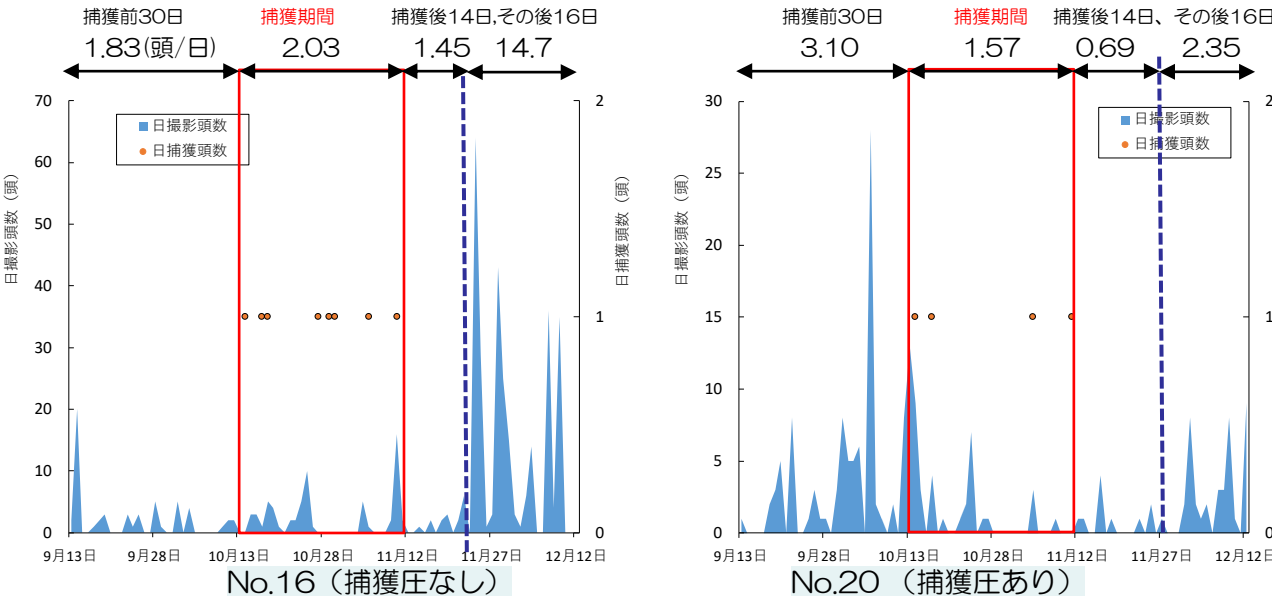
- カメラを使わない捕獲効率の事例 (CPUE=0.011) と比べ、2~4倍の捕獲効率。
- 捕獲圧のないNo.16は捕獲圧のあるNo.20に比べ、捕獲頭数・平均CPUEとも高かった。

【推定生息密度の推移】

	推定生息密度(頭/km ²)		
	捕獲前 (2020.10.9)	捕獲後 (2020.11.27)	減少率 (%)
No.16	343.41	231.48	32.6
No.20	49.60	24.80	50.0

- 捕獲前後でNo.16は32.6%減、No.20は50.0%減となり、捕獲の効果があった。

【カメラ撮影頭数】



- ニホンジカは季節移動があるため、単純に比較はできないが、30日間捕獲を行うことで、捕獲前と比べ、撮影頭数は減少する。

- 生息密度の減少は、捕獲後2週間程度保たれるが、その後回復する。

- 捕獲圧があると回復は遅いが、捕獲圧がないと急激に戻る。

- 捕獲頭数の大小は、生息密度の変化に大きな影響を与えていない。